

## 第19回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 まちづくり推進部会 主な意見

開催日時：令和2年1月30日（木）10:00～12:00

開催場所：大宮区役所6階 601・602会議室

出席者

選出区分	役職等
学識経験者	東京大学 工学部都市工学科 窪田 亜矢教授
地元 まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 会長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 副会長
地元 まちづくり団体	大宮駅前大門一丁目中地区市街地再開発準備組合 理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅前大門一丁目中地区市街地再開発準備組合 副理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
地元 まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 専務理事
関係行政機関	さいたま市 都市局 都心整備部長
関係行政機関	さいたま市 大宮区 副区長
デザイン コーディネーター	アーバンデザインセンター大宮 副センター長
オブザーバー	都市再生機構 東日本都市再生本部 事業企画部 事業企画課 担当課長

- ・ GCS プランの構成イメージ図は具体化されて良くなったと感じる反面、これだけを見た場合、どこのまちの話だろうと思うかもしれない。ここを見れば、大宮のまちはこのような取組みをするのかとわかってもらえる内容にするべき。
  
- ・ 交流広場や公共的空間等の検討エリアなどは、プランの中でどう位置づけられるのか。  
⇒広場等は、公共による整備だけではなく、民間まちづくりと合わせて整備していきたい。「開発街区等民間まちづくり」の中に落とし込まれることで、開発街区の中に整備される広場と個別整備計画の交通広場の間で、まちづくりガイドラインに基づいて連携して整備していければ良いと考えている。
  
- ・ 大宮らしさという言葉が出てくるが、例えば 50 年前と現在の大宮の比較をした上で、将来の大宮はどのようになるのかの推測ができれば、大宮らしさを捉えるポイントが見えるかもしれない。そのようなことが分かる資料があればありがたい。
  
- ・ 大宮らしさとは何か、ということを考えるのが非常に難しいことであると皆が感じることは重要なことと思う。どのようにしたらまちが良くなるのかという問いを皆様で共有できるようにしたい、というのが GCS プランの目的ではないかと思う。
  
- ・ 大宮のまちづくり戦略の中に、「みどりが人を呼ぶシーンをつくる」とあるが、以前銀座通りのアーケードを撤去した際、木を植えて欲しいと要望を出したときには、市は様々な理由から認めてくれなかった。市が本当にこのような戦略を実行できるのか疑問である。  
⇒現状の大宮駅前に緑が少ないという中で、「みどりが人を呼ぶシーンをつくる」の「みどり」は公共空間に入れていきたいという意味もあり、各地区の皆様の協力も得ながら、緑が多い大宮駅前にしていきたいと考えている。
  
- ・ 構想図（案）に対しては色々な感じ方があると思うが、これを見た人に想像の余地を与えるという点では良いと思う。これを見た人が、「これがあれば良い」「あれは無くても良い」といったことを考えられるものになれば良いのではないか。
  
- ・ 大宮の大きな強みである氷川参道や、まちの資源となる旧区役所跡地や旧図書館跡地等との繋がりの方向性が見えると「おもてなし歩行エリア」の意義も強調されるのではないか。
  
- ・ ストリート・テラスについては、皆が気軽に使えるというだけでなく、そこで収益を上げながら賑わいを創出し、その賑わいの持続性をどのように担保するのかについても記載すると、今後のエリアマネジメントにも繋がると思う。

- ・見沼も大宮にとっては重要な資源なので、繋がりがわかるように記載しておくべき。
- ・そのまちで過ごす人の1日をストーリーで見せることで、各要素がつながって見えてくるかもしれない。都市空間形成の指針や方策案は、列挙した各項目がここからどのように掛け算されていくのが重要。その掛け算の仕方が大宮らしさにもつながり、結果としてGCSプランを読む住民や事業者にもわかりやすくなるのではないかな。
- ・企業誘致を民間が行うような表現になっているが、市長などがさいたま市としての戦略に基づいてトップセールス等を行うべきものではないかな。

・VRが多くネット上に出ているが、あのVRは今後作りなおすのか。

⇒VRは意見を頂くためのたたき台として出している面もあるので、今後は今年度作成しているものに切り替えていきたいと考えている。

- ・資料の中にデッキという言葉がたくさん出てくるが、デッキをつくるのか、地上を大事にするのか、人を大事にするのか、車を大事にするのかといったことも固めるべきだろう。

- ・縦動線の表現が機能的なものに終始していると感じた。縦動線は空間のつなぎの部分として重要であり、民間開発と基盤整備の間で顔となる部分でもあるので、より魅力的なものとして表現できれば良い。

- ・現在の東口駅前の駐輪場は不足しているが、駐輪場の話が出てこない。生活目線が全く入っていない資料になっている。内容が土木系のことばかりだが、もっと様々な観点から検討を進めた上で、民間とどのように協力していくのか整理することが最も重要。

- ・「公共的空間等の検討エリア」がなかなか出てこないが、開発街区の一部がこの「公共的空間等の検討エリア」にほぼ置き換わるのではないかと認識しているので、その点は何らかのフォローをお願いしたい。

⇒このエリアに交通機能を入れることは考えにくいという話は、11/14の第9回GCS推進会議で説明した通りであるが、どのように整理するのかについては、西地区の皆様とも協議をしながら進めていきたいと考えている。

- ・検討内容がなかなか住民に伝わっていかない。なぜまちや駅を利用するのに意見が言えないのか、という声もある。

⇒これまでは大宮区民まつり等イベントでの取組み内容説明やアンケート実施、パブリックコメントやオープン会議によって住民の皆様からの意見の聞き取りを行ってきた。まだ不十分なところもあると思うが、プランの中に市民の皆様の見解を示しながら、GCSプランの内容に関連づけていきたい。

- ・ 公共だけで進めようとするとう上から目線に感じてしまう一方で、民間だけで進めるとすると丸投げだと感じてしまうので、行政としてもどのように表現すべきなのか悩んでいるのだろう。公共だけではなく民間も一緒に進めていくのだというメッセージが伝われば良い。各地区の委員の皆様も、地区内でこれを説明しなければならない立場としては難しい部分もあると思うが、うまくそこを繋ぐ役割を担いながら、皆様の意見が反映されるようにしていただければ良いと考えている。

以上